

入賞

一般建築物の部

～乗馬の文化と融合した
ハイブローな建築・ランドスケープ～

東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟

建築主：株式会社 東京クラシック

設計：古谷デザイン建築設計事務所

施工：(森のクラブハウス) 株式会社 松村組 東京支店
(馬主クラブ棟) 根本建設 株式会社

所在地：千葉市若葉区和泉町364-28他

この作品は、欧米で遭遇する乗馬文化を想起させる。例えばパリ近郊のシャンティイにある競争馬の馬場と城と森であり、メキシコシティの高級住宅地にあるルイス・バラガンによる厩舎付住宅サンクリストバルである。その有様は全く異なるが、ともに由緒ある乗馬文化の歴史に裏打ちされた、日本ではなじみの薄い人と馬を巡るソサエティが作り上げた桃源郷である。

一方、ここはグレードの高いカントリークラブの附属施設。里道を隔てた樹林地のランドスケープを「アニマルウェルフェア」の一環と位置づけ、馬主のクラブハウスと厩舎が一体的に計画された。上記の后者をどこかで意識したと思われるが、RCのスレンダーな柱が林立する馬主クラブハウスは、グリッド状に植林された樹林地と呼応し、柔らかな緑化屋根の馬主厩舎から発せられる音や臭いとともに、独特なアトモスフェア（環境）で満たされている。訪れた夕刻の薄暮の下で灯りに照らされた施設群の風情は、とても美しかった。

竣工後間もない本作品は、まだ熟成された姿を見せてはいない。カントリークラブのコンセプトに掲げられた環境共生的な目的の達成は、一重に今後の運営と社会化の成否にかかっていると思われる。（岩村 和夫）



クラブハウス全景



馬主クラブ全景

(撮影/山内 紀人)

入賞

一般建築物の部

子どもたちの「生きる力」を育む保育の実現を目指す

一宮どろんこ保育園

建築主：社会福祉法人どろんこ会

設計：ユニップデザイン 株式会社

施工：片岡工業 株式会社

所在地：長生郡一宮町一宮8683

一宮川沿いにあった町立一宮保育所は、建物の老朽化対応（築33年超）と、震災時の津波被害を懸念する声が出ていたことから、一宮地区高台（海拔2m→13m）に移設が計画された。同時に、これまで町内に設置されていなかった幼稚園のニーズにも対応した（それまで、児童は隣接する市町の幼稚園へ通園していたという）保育所型認定こども園として、その運営が民間法人に引き継がれた。

広大な敷地（8,000㎡）に、定員170名（保育150・幼稚園20）の大規模木造の園舎は、南側に広がる園庭を囲むようにL型に配置されている。保育室・遊戯室は大断面集成材を用いて大空間を構成し、異年齢児が自由に行き来できるワンルーム形式を基本とし、保育室の前面に連続して広く長く続くデッキ（縁側と縁側広場）を介して、園庭まで素足で行動できる構成になっている。

園のシンボルとなる展望デッキ広場で歓声を挙げる園児たち、一方で構造体に取り付けられた木製遊具で身を屈めて黙々と遊ぶ園児の姿が印象に残った。

町の子育て支援センターも併設（町営）。安心して子育てができる環境づくりを推進する一宮町に於ける、重要な拠点として機能することに期待したい。（夏目 幸子）



庭園の芝生広場より園庭を眺める



照明と一体となった木造梁が連続する異年齢保育を行う
保育室

(撮影/小川 重雄)